

「食と農を基軸として
地域に根ざした協同組合」として
社会的役割を果たす

JAの活動報告書

2019

(平成30年10月～令和2年3月)



J Aグループ広島では、目指す将来像である“「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として社会的役割を果たしている姿”に向けて、第28回J A広島県大会で決議した基本目標である「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を達成するために、全力で取り組んでいます。

その基本目標の達成に向けた各種取り組みの「核となる施策」は、『組合員とともに進めるJ Aの自己改革』です。

県内のJ A・連合会において、一歩ずつではありますが、着実に組合員とともに自己改革を進めています。

2019年度における、そうした自己改革の取り組みを、冊子としてまとめました。

この自己改革の取り組みにより、地域農業のみならず、地域の生活も振興が図られてきたと確信しています。

■ 今後も、自己改革を継続し、食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として社会的役割を果たしてまいります。

～目次～

1. 徹底した話合いの実践・自己改革の見える化	3
2. 農業者の所得増大・農業生産の拡大への取り組み	11
3. 地域の活性化への取り組み	36
4. 災害からの復興に向けた取り組み	53

第28回JA広島県大会決議の全体イメージ

「食と農を基軸に地域に根ざした協同組合」として社会的役割を果たしている姿

目指す将来像

大会主題：組合員とともに自己改革で未来を創る
～徹底した話し合いの実践で“農と地域”に貢献するJAに私たちはなる～

基本目標

農業者の所得増大

農業生産の拡大

地域の活性化

平成30年7月豪雨災害の復興支援に協同の力の結集を！

1. 豪雨災害の概要とJAグループ広島の支援活動 2. 組合員の営農復興・再開に向けての計画的支援 3. 暮らしの中での災害対応

農業者の所得増大・農業生産の拡大

基本目標に直結する取組み

地域の活性化

2. 農業者の所得増大、農業生産の拡大に向けた取組みのステップアップ

- ①JAグループ広島の総合力で目指す販売高目標
- ②各JAにおける営農振興の取組みのステップアップ **C**
- ③広島県を1県1農場と捉えたマーケットインに基づく生産・販売の強化 **D**
- ④担い手支援と新たな担い手の育成 **E**
- ⑤消費者との信頼を築く食の安全・安心確保対策の実践
- ⑥都市農業の振興と農地の保全
- ⑦営農・経済事業への経営資源のシフト **F**

対象＝正組合員
特に、担い手経営体
中核的担い手

基本目標の「核となる施策」

- 1. 組合員とともに進めるJAの自己改革
 - ①「組合員の声を聴き、声に応える徹底した話し合い実践運動」の展開 **A**
 - ②地域根ざした協同組合運動を先導する人づくり **B**

対象＝正組合員
准組合員

基本目標を
「横断する取組み」

- 5. ファーマーズ・マーケットを起点とした農と協同の地域づくり
 - ①ファーマーズ・マーケットを核とした農業者の所得増大に向けた取組み **H**
 - ②農業と地域住民の懸け橋となるJAファーマーズ・マーケットづくり
 - ③JAファーマーズ・マーケットから発信する地域の「食」と「農」と「協同」
 - ④JAファーマーズ・マーケットの県域視点での運営支援体制の確立

対象＝正組合員・
准組合員・地域住民
(特に多様な担い手)

基本目標の達成を「支える取組み」(対象＝正組合員・准組合員)

6. 自己改革の実践を支える経営基盤の確立

- ①健全経営にふさわしい経営基盤の確立
- ②持続可能なJA経営基盤の確立・強化 **I**
- ③自己改革の実践力を高め、健全なJA運営を支える人づくり

8. 将来を展望した新たな県内JA合併構想の実現

- ①JA経営改革の着実な実践
- ②県域統合JAの創造と実現

7. 自己改革に実践を伝え、地域と県民からの理解を醸成する広報活動の展開

- ①JA広報活動の位置づけの明確化、活動の重点化・段階的向上
- ②「JAグループ広島統一広報戦略」に基づく広報活動の展開
- ③協同組合の今日的意義・社会的役割への理解促進
- ④JAマークの使用ルールの明確化(全国での取組み)

9. 大会決議の実践支援・進捗管理の徹底

- ①実践進捗管理・PDCAサイクル循環の仕組みの確立
- ②声を聴き、声に応える徹底した話し合い実践運動との連動
- ③中央会・連合会によるJA自己改革の支援

自己改革

危機を克服するJAグループ広島の取組み

JAグループが直面する3つの危機

協同組合の危機

- ・正組合員の高齢化と減少
- ・組合員構成の多様化
- ・組合員の“お客様化”
- ・“わがJA”意識の低下
- ・協同組合に対する無理解

農業・農村の危機

- ・担い手不足、高齢化
- ・基幹的農業従事者の減少
- ・農業生産基盤の縮小傾向
- ・農村人口の減少、過疎化
- ・食料自給率の低下


事業・組織の危機

- ・JA経営基盤の弱体化
- ・事業取扱高の減少傾向
- ・信用・共済事業の将来収益の縮小懸念
- ・JA総合収支の悪化懸念

豪雨による甚大な被害

30年7月豪雨災害

- ・豪雨による農地の崩壊
- ・被災農業者の営農意欲の低下と離農懸念
- ・一日も早い営農再開と暮らしの復興支援の必要性



徹底した話し合いの実践

自己改革の見える化

6つの生産者組織・部会と話し合いを実践しました JA佐伯中央

- JAに属する、青壮年連盟・野菜研究会・長ナス部会、軟弱野菜部会、いちご部会、いちじく部会の6つの生産者組織・部会がそれぞれ常勤役員・担当部署職員と意見交換を行いました。
- 意見交換で出たJAへの要望・希望については、早期の改善・実現に取り組みました。
- また、意見交換の実施・話し合いの機会提供を望む声も多かったことから、今後も継続して役職員で取り組みを進め、JAに対する期待、信頼を高めていきます。



女性部と役職員との対話集会を行いました JA安芸

- 女性部全14支部の役員と役職員の対話集会を開催しました。
- Aコープ西日本の役員も出席し、総勢33名の対話集会となりました。
- JAの事業や自己改革、Aコープ店に対する意見、女性部員の減少や高齢化の問題など意見や考えを出し合い、また、組織や地域の活性化等について対話を行いました。



女性部とJAのつながりをより強固にしています JA呉

- JAと女性部の関係を強固にし、地域の活性化につながる活動を広げるため、令和元年10月に対話集会を開催しました。
- 女性部代表11名、JA役職員9名が参加。今後の活動やJAの在り方、地域の活性化等について意見を交わしました。
- 活発な意見交換により、課題や要望の共有ができ有意義であったと高評価をいただき、引き続き対話を重ね問題を解決していきます。



役員が生産者を訪問しました JA呉

- 組合員の声を聴き・声に応えるため、令和元年12月、役職員8名で倉橋・尾立地区の組合員（総代）と話し合いを実施しました。
- 組合員より、営農相談員の増員、若い営農相談員の育成などの要望がありました。また、JAは生産者に歩み寄ってくれている。すぐに相談に乗ってくれるとの評価もいただきました。
- 組合員の要望に応えるよう、人員を再配置し営農指導員を増やすように検討する予定です。

集落営農法人と意見交換をおこないました JA広島中央

- 集落営農法人代表者40名とJA役職員約40名による意見交換をおこないました。
- この意見交換により、集落営農法人のニーズや課題等を把握して、JAの総合事業を発揮して課題改善に向けた提案をすることで集落営農法人の経営発展の支援・JAとの強固な関係作りに繋がっています。
- 今後も定期的を開催し、地域を守る集落営農法人の率直な意見を直接聞き、生産コスト低減支援や省力化支援などをJA事業に反映させることで、経営を支援します。



JA女性部や総代との意見交換をおこないました JA広島中央

- JA女性部との意見交換や支店別に総代との意見交換を開催し、課題の共有・関係の強化を図っています。
- いただいた意見は、各部署で共有を図り、個別に対応を検討しています。
- この意見交換は、継続して実施することが重要であるとの認識のもと令和2年度以降も行います。



担い手への個別訪問による話し合いをおこなっています JA広島中央

- 組合長をはじめ、常勤役員4人が管内46集落法人を訪問、認定農業者と認定新規就農者124戸は支店長、グリーンセンター長が訪問して、地域が抱える課題やJAが独自で作成した記入帳により営農指導、販売事業、購買事業の対応など4項目を重点的に聞取り、記載内容を役職員と情報共有し、JAの事業運営に反映させています。
- 「現場の声に耳を傾けてもらえることはありがたい、JAの事業運営に生かしてもらいたい」と期待をいただいています。
- 継続して、組合員との話し合いを活発に実践することで、自己改革を確実に進め、農業者の所得向上に貢献します。



教育文化セミナーを開催しました JA尾道市

- JA尾道市は『ここで暮らす、ここを創る～話し合い、学び合い、実現する～』をスローガンに、令和元年度からの第3次教育活動方針について、組合員・地域住民などの「声を聴く」取り組みと1支店1協同活動の強化、また、組合員・地域住民のくらしの願いを実現するための協同活動の展開を重点的に取り組んでいます。



総代会報告会を開催しました JA三原

- 総代、協力委員、生販委員、女性部支部長を対象に「平成30年度事業報告」「中期計画」「JA三原版『農業所得増大・地域活性化応援プログラム』」を報告・説明して意見交換を行いました。
- 出席者からは、平成30年7月豪雨災害からの復興についての質問やJAの事業・活動についての要望がありました。
- 要望については、今後の事業運営に反映してまいります。



役職員が担い手を訪問して意見交換しています JA三原

- JA役職員から、「平成30年7月豪雨からの復興支援事業」や「農産物販売の強化方針」を説明、担い手からは「農業振興への期待」や「生産コスト削減への積極的な取り組み」への要望がありました。



女性部と役職員による意見交換会を開催しました JA三原

- 女性部と交流を深めるとともに、要望を聴く場として意見交換会を開催しました。
- 女性部からは、活用に必要な施設の利用と設備の充実にかかる要望があり、JAからも地域の活性化などに向けた活発的な取り組みをお願いしました。



集落法人と意見を交わし農業経営の課題を共有しました JA福山市

- 集落法人が抱える課題や問題を共に考え、地域農業の振興と活性化を図るため管内の集落法人代表者と役職員による意見交換会を開きました。
- 各集落法人からはそれぞれの経営概要の説明があり、高齢化による経営の維持が厳しくなっていること、助成金等の資金面での支援など共通の課題について報告がありました。
- 高齢化や担い手不足による耕作放棄地の拡大など、課題が山積しているなか、環境変化に対応するためにも意見や要望を精査・検討していきます。



女性部と常勤役員による意見交換会を開催しました JA福山市

- 女性部の活動の活性化・発展と、JAの事業運営に女性部の声を取り入れるために、意見交換会を開催しました。
- 女性部の活動報告や活動計画を共有するとともに、JAの事業運営に対する意見をいただきました。
- また、この意見交換を定例化して欲しいという要望もあり、令和2年度以降も、年に1回以上開催する予定です。



集落法人とJA役員による意見交換会を実施しました JA三次

- JA三次の営農振興や農業関連事業に関する取り組みについて、担い手の中心である集落法人とJA役員による意見交換会を実施しました。
- JAから自己改革の取組状況について説明を行い、理解促進に努めると同時に、各法人からいただいた課題や要望等について事業運営に活かすため実施しています。
- 令和元年度は、常勤役員および各部担当者のチーム編成による訪問で、令和元年11月～令和2年2月にかけて管内全34法人（出席者：137名）で実施しました。
- 令和元年度で意見交換は3年目となります。直接法人役員とJA役員が意見交換できる場として定着・評価をいただいております。今後も継続する予定です。



女性部とJA役職員の対話集会を実施しました JA三次

- 女性部活動から積み上げた声をJA事業に反映し、女性のJA運営への参加・参画を図ることを目的に実施しました。
- JAからは自己改革や各事業の取り組み状況の説明を、女性部からはそれに対する意見や要望を話し合いました。また支部活動で出た要望や改善点等について意見交換を行いました。
- 毎年実施していますが、女性部からは役員・職員へ直接意見を言える場として好評をいただいております。今後も継続する予定です。



一斉訪問日を導入しています JA庄原

- 組合員・利用者と顔を合わせてコミュニケーションを取り、JAとのつながりをより深める事を目的に、原則毎月第4土曜日を「一斉訪問日」としました。
- また、新たに組合員からの意見や情報を記入して報告する様式も作成し、情報の共有も図っています。

情報発信を強化しています JA広島市

- 広報誌「こいぶみ」・情報紙「JA広島市ラブレター」・日本農業新聞・ホームページで自己改革の取り組みのみならず、JAの事業・活動の紹介、暮らしに役立つ情報提供などを行っています。



リーフレットを作成し、自己改革について理解促進を図りました JA安芸

- 自己改革の実践状況やJAの取り組みを広く知ってもらうため、リーフレット「JA安芸自己改革の実現に向けた取り組み」を作成し、全組合員へ配布しました。
- どのように自己改革に取り組んでいるか写真など使用して分かりやすく「見える化」したリーフレットで、今後も組合員や地域住民とのコミュニケーションツールとして活用していきます。



手書きによる支店広報紙を作成しています JA三原

- JAをより身近に感じてもらうため、温かみのある手書きで支店広報紙を作成しています。
- 支店の窓口で地元の職員が少なく、会話の機会も減少していましたが、支店広報紙を見た組合員・利用者と会話するきっかけとなりました。



総代会で自己改革の実践内容を報告しました JA三原

- 前期中期経営計画で取り組んだ自己改革の実績を、総代会でカラー印刷の別冊&DVD映像により説明しました。



自己改革の取り組みと実績をボードに掲示しました JA三原

- 組合員・利用者・職員に向けて、自己改革の取り組みを伝えるために、ボードに掲示してJA本店の正面玄関ホールに設置しました。
- 組合員・利用者のみならず、職員も改めてJAが取り組んでいる自己改革を理解することができました。



支店広報誌を作成しています JA庄原

- JAをより身近に感じてもらうため、全支店で広報誌を作成し発行しました。
- 支店広報誌を通じて、利用者との距離が縮まり会話のきっかけになっています。



「農業者の所得増大」

「農業生産の拡大」

への取り組み

生産コストの約10%削減に取り組んでいます JA広島市

- 銘柄集約によるコスト低減の取組みとして、令和2年春肥予約回覧より、既存の水稲用肥料「JB575M(20KG)」から、「早生い〜ね755(15KG)」へ全面改訂し、生産コストの約10%削減に取り組んでいます。
- また、大口予約購買による生産コストの低減に向けて、土壌診断や展示圃結果に基づいた商品を選定し、提案しています。



生産者の連携強化（ネットワークづくり）を支援しています JA広島市

- 地域を越えた部会の設立と育成・支援に取り組んでいます。
- 管内の女性農業者を構成員とした「農業女子ネットワーク」を立ち上げ、情報共有や意見交換、6次化など地域農業の振興へつなげる取組みを行っています。
- また、令和元年7月にはJA YOUTH広島市の中に、50歳以下の盟友を構成員とする青年部を新たに設置し、積極的な交流活動を行っています。



JAファーマーズ・マーケットの強化に努めています JA広島市

- 「農彩館 五日市ファーマーズ・マーケット」と「農彩館 矢野とれとれ市場」の2店舗では、“生産者の顔が見える店”、“広島県産農畜産物が豊富にある店”をコンセプトに、他の量販店等とは異なる店舗展開を徹底し、出荷者との連携のもと、販売強化に取り組んでいます。
- 特に「農彩館 五日市ファーマーズ・マーケット」では、デジタルサイネージを設置して、ファーマーズ・マーケットのイベント情報やJA広島市の活動を紹介するなど、「食」と「農」を通じたJAと地域のつながりを発信しています。



管内産の農畜産物のPRを強力に推進しています JA広島市

- 収穫を地域とともに祝う農業祭において、「JA広島市特産品コーナー」を全農業祭会場に設置し、管内産の農畜産物のPRを行いました。
- 多くの方に来場いただくため、全支店にポスターの掲示やテレビ・ラジオコマーシャルを発信し、広く周知しました。
- また、全組合員世帯に配送する情報誌「ラブレター」を活用し、農業祭スタンプラリーを初めて実施しました。



担い手への農業金融対応を進めています JA広島市

- JA農業資金保証料助成制度を活用し、さらに3年間利子補給されるJA営農支援資金「営農たすかるくん」をはじめ、各種営農資金および制度資金の活用促進を進めています。



JA産直ふれあい市場夏まつりを開催しました JA佐伯中央

- 廿日市市が制定した野菜の日(8/31)に産直市場において、青壮年連盟による自家製産野菜の対面販売と、子供向け出店を行い、管内農業者が生産した農産物のPR・地産地消を図りました。
- また、廿日市市のヘルスマイト(食生活改善推進委員)と連携して、管内農畜産物の試食やレシピ配布による販売向上を図りました。



農業者サミットを開催しました JA佐伯中央

- 県内9名の凄腕農業者を招き「儲かる農業」「地域を守る農業」についてパネルディスカッションをしていただきました。
- 参加傍聴した生産者はもちろんのこと、パネリスト同士も今後の農業経営の参考となる有意義なサミットとなりました。



規格外農産物を加工食品業者へ販売しています JA佐伯中央

- これまで廃棄していた規格外農産物を、食品加工業者を通じ、量販店の惣菜コーナーで販売したところ、消費者等からの評判も良く、継続して取り組むこととなりました。
- この取り組みで、台風による果皮等の傷物でも生産者が納得できる金額で販売できました。



企業による農業参入を支援しています JA佐伯中央

- 遊休農地の解消や農業生産の拡大のため、農業融資や栽培・販売指導を通じて、企業による農業参入を支援しています。



「中央サミット」による事業連携に取り組めます JA佐伯中央

- JA名に「中央」が付く中国四国地方の5JAで、JAと県域を越えた事業連携で農業振興、地域活性化に取り組むため、事業連携協定書の調印式を行いました。
- 特に、それぞれのJAが所有する販売ノウハウ等を用いて相互協力するとともに、人事交流による情報の共有・相互発展を目指します。



市民農園「JA安芸アグリパーク」を運営し、農業理解を図っています JA安芸

- 市民農園「JA安芸アグリパーク」は、野菜づくりを通じて農業への理解を深める場となっています。
- 都市在住の方でも農業体験が身近なものになり、幅広い年齢層の方に利用されています。

地域農業の担い手育成支援に取り組んでいます JA安芸

- 新規就農者が安心して営農に従事できるよう、農業経営だけでなく、暮らしについてもサポートする体制に取り組んでいます。



担い手への金融支援として「JA営農支援資金」を実施しています JA安芸

- 営農指導員と購買担当者および支店の融資担当者（金融部門）が連携し、3年間利子補給されるJA営農支援資金「営農たすかるくん」を中心に、出向く営農指導を実践し、ご提案しています。
- 令和2年1月末現在で、22件、48,860千円のご利用をいただいています。

マーケットインによる加工品等の商品開発に取り組み、地域の6次産業化をサポートしています JA安芸

- マーケットインによる加工品等の商品開発について、農業経営プラスワンの所得確保の取り組みとして、酒米や地ビール製造の原料「むらさき麦」の試験栽培を行い、JA安芸ブランドの日本酒および地ビールづくりに向けた調査研究を実施しています。
- 地元で収穫されたトマトを使って地域のグループが作ったケチャップ「ババチャップ」など、地域の6次産業化の取り組みをサポートしています。



生産者部会の支援に取り組み、生産振興を図りました JA安芸

- 生産者同士の連携や販路の確保、および営農指導を強化するため、各種農産物の生産部会の設立と支援の強化に取り組みました。
- 「JA安芸白ネギ生産者部会」を立ち上げ、白ネギ生産を主体的に取り組む生産者の栽培技術の向上と出荷体制の集約・調整作業の共同化等によって生産振興を行い、栽培面積125aを目標として生産拡大を図っています。
- 「JA安芸マックスバリュ海田店出荷者組合」を新たに立ち上げ、出荷者間の連携を密にし、品質の向上や価格の安定等により販路の拡大に取り組んでいます。



レンタル方式の事業「農家のやる気応援プロジェクト」に取り組み、生産者の負担軽減や生産力の強化を行っています JA安芸

- 導入費用がかかる農機を安価な料金でレンタル方式に貸し出す「レンタル農機事業」を行い生産者の負担軽減や生産力の強化に取り組んでいます。



JAが直接農業経営を行う「JA安芸きずな農園」を開設しています JA安芸

- 地域農業と営農・経済事業の改革を実践するため、広島市安芸区上瀬野地区にJAが直接農業経営を行い、農産物の生産はもとより研修農園としての機能を持つ「JA安芸きずな農園」を開設しています。
- JA自らが地域の農業経営モデルとなるよう、広島県農業（園芸品目）ランドデザインにある県域重点推進品目を中心に作付けを行い、管内農家への営農指導やJA安芸の特産品をめざした推奨栽培を行い出荷し、農業生産の拡大に取り組みました。
- 地域の見本園や農業研修、実証農場としての役割を發揮しています。
- 鳥獣害対策の実証について、事例発信を行っています。
- 令和元年度より農福連携事業を開始しました。同農園で、福祉施設利用者に営農指導等を行いながら就労を支援し、週3日農作業をしてもらう医療法人福祉施設との連携事業です。
- 福祉の分野からは、就労支援や農作業を行うことで、身体的・精神的に良い影響が見られ、社会コミュニティへの参加や一般就労につながると考えられており、農業分野からは、高齢化等による労働力不足の解消、地域農業の維持、地域の活性化につながる取り組みと期待しています。



講習会等開催し、地域農業振興に取り組んでいます JA安芸

- 野菜や花の栽培管理から出荷までの一連の流れを実地で学ぶ「あき農業塾」を開校し、地域農業のリーダーを育成しています。
- 行政と連携した農業初心者向けの講習会等開催し、生産者の育成と地域農業の振興に取り組んでいます。



日本農業検定を実施し、職員の農業に関する知識強化に取り組みました JA安芸

- 農業と接する機会が少ない信用、共済業務を担当する職員の農業に関する知識習得を目的として「日本農業検定」を実施し、資格取得を推奨しています。
- 習得した農業知識が組合員や農家とのより深いコミュニケーションやきずなづくりにつながっています。
- 令和2年2月末現在で、3級2名、2級19名、1級2名が取得しています。

役職員が利用者と直接交流し、産直市の活性化に取り組んでいます JA安芸

- 産直市に役職員が積極的に出て、利用者と直接会話など交えて情報発信を行っています。
- 旬の農産物の情報発信を行うだけではなく、JA事業、自己改革への評価や意見、要望、期待等、幅広い世代の組合員や地域住民と直接対話し、情報交換を行う貴重なふれあいの場となっています。



スモモの庭先集荷を行っています JA呉

- 近年、生産者の高齢化によりスモモの取扱量が減少しており、取扱量の維持を図るため、庭先集荷を行っています。
- 運転免許証の返納や怪我や病気等で出荷できない生産者をサポートし、また、訪問時には営農相談も受け付けています。
- 出荷者の20%が庭先集荷を希望しており、出向くことで交流も生まれ、細やかな営農指導に応じることも可能となり大変喜ばれています。
- 今後は、他地区でも庭先集荷希望者を募り品種も拡大を目指します。



炭酸ガス発生機装置を無償貸与しています J A呉

- J A全農ひろしまと協力して、生産者に炭酸ガス発生機をJ A経由で一定期間無償貸与して効果を実感してもらっています。
- 倉橋地区と江田島地区の生産者 6 戸のハウス内に設置し、二酸化炭素を施与することで光合成能力を高め、施設野菜の収量と品質を向上させます。
- 炭酸ガス発生機を設置した生産者は、生育データ等をJ A全農ひろしまに提供し、施用方法について助言・指導しています。



ラジコン草刈り機の導入について検証しました J A広島中央

- 生産者の負担になっている草刈り作業の負担軽減を目的に、令和元年度にラジコン草刈り機による作業実演で作業時間、労力、費用の軽減効果および事業性について検証を行いました。
- 2 機種 of ラジコン草刈り機で、機種による違いや、のり面の状態、草の伸び具合などの条件による違いなどを検証したところ、猛暑での作業時間を既存の草刈り機と比べると、従来は2時間かかるところ、自走式では約20分で済ませることができ、労力軽減につながる検証内容となりました。
- 行政（市）からも取り組みに対し評価を受けたことから、今後は、行政とも連携し最善の事業を展開する予定です。



小規模稲作農家に地域でグループ化することを提案しています J A広島中央

- 農地の8割を占める小規模稲作農家では、個別経営による営農継続が困難になっています。
- そこで、地域内の複数農家に対し、グループ化して、農業機械の共同化・グループでの生産資材の購入など、生産から販売までのトータルコストを削減することをJ Aが提案しました。
- 管内9グリーンセンターそれぞれで1モデルの設置を目標に提案を行った結果、土壌改良剤の満車直行、共同散布、レンタル田植機の利用などに繋がりました。
- 集落営農法人化へむけて話合いが始まった地域もあります。
- グループ化をしても黒字経営への転換は厳しい状況ではありますが、今後は、複数の地域グループ営農による集落営農法人への組織化なども視野に入れて支援を続けます。

地元野菜を学校給食センターへ安定供給しています JA広島中央

- 地元野菜を学校給食センターへ積極的に紹介、食材に取り入れてもらうことで、地産地消の拡大を図りました。
- また、段ボールなどの資材・物流コストを削減するとともに、簡易的な選別、安定的な取引価格を実施したことで生産者手取りの最大化を行うことができました。
- 今後も、給食センターへ需要調査を行うとともに、JAから旬の野菜を提案することで供給量の拡大を目指します。



直売所での販売を核に野菜生産の拡大に取り組んでいます JA広島中央

- 令和元年5月に開設した、「とれたて元気市 となりの農家店」（全農ひろしまとの共同運営）を野菜販売の核として生産拡大を図っています。
- 当JA管内は露地栽培が中心であったため、気象等により生産量が変動していました。そこで、当JAがハウス施設の一部を助成することで施設化を推進、同店への安定出荷に繋がっています。
- 助成は、組合員を対象にハウス施設1人1棟に対し、19万円を上限に行いました。平成30年度は14棟、令和元年度は6棟の新設がありました。
- これまでと比べ店舗が大きくなり、より多くの野菜を出荷いただけるようになったため、今後は、通年での安定した供給を目指して、取り組みを進めます。



レンタル農機のラインナップを増加しています JA広島中央

- フレールモア・水稻直播田植機・レーザーレベラー・密苗田植機・コンポキャスター・整形機のレンタルを実施しています。
- 利用者からは、高評価をいただいております。今後も多くの組合員に利用していただくため、積極的に周知していきます。



資材価格を下げるため物流コストの低減に取り組んでいます JA広島中央

- 水稻肥料・土づくり肥料の早期予約と満車直送による配送コストの低減に積極的に取り組んでいます。
- このため、既存利用先の継続のみならず、未利用先の獲得に向けた推進活動を行っています。
- 利用者から好評をいただいていますので、今後も積極的取り組みます。



ヘリコプターとドローンを活用した防除を受託しています JA広島中央

- 生産者の省力化と基幹防除の徹底に向けて、ヘリコプター(3ha)・ドローン(10a)での受託防除を実施しています。
- 利用者からは、高評価をいただいております、今後も多くの組合員に利用していただくため、積極的に周知していきます。



鳥獣被害防止資材の設置作業を支援しました JA広島中央

- 鳥獣被害の防止柵などを設置する際に、高齢化や後継者不足等で作業が困難な集落営農法人・地域について、管轄のJA職員が設置作業を支援しました。
- この支援は、集落営農法人代表者との意見交換会でいただいた要望から、実施を決定しましたが、「人手が足りず、限られた人員での作業は時間がかかるので、助かります。」と評価いただきました。
- 持続可能な農業を実践するため、今後もJAでしかできない支援を広げます。



出荷説明会を開催しています JA広島ゆたか

- 出荷者の意識を高め、ブランドを維持していくために出荷説明会を開催しています。
- 地区別で毎年9月に行う説明会では、かんきつ生育状況の説明や販売状況を見込んだ荷受け・販売方策の説明をするとともに、販売手数料・荷作り経費を説明して了承いただいています。
- これにより、農協出荷への意識を高めるとともに、厳選したかんきつ類の出荷を通じて有利販売に結びつけ、出荷者手取りを確保しています。
- 出席率は高く、説明会の重要性を認識いただいております、今後も継続して開催します。



営農座談会・注文農薬説明会を開催しています JA広島ゆたか

- 毎年2月に地区別で営農座談会・注文農薬説明会を開催しています。
- 説明会では、農業振興方針を説明して、生産者とともに産地振興を図っています。
- また、当年度防除暦の説明をし、産地全体の防除効率を高めるとともに、注文農薬販売方策の説明し、資材を安価に供給できるよう努めています。



担い手部会（百姓一輝の会）の定期検討会を開催しています JA広島ゆたか

- 担い手農家の育成と情報共有を目的に、毎月検討会を実施しています。
- 会員はほぼ全員参加となっており、今後も継続することで担い手の自立と質の向上を図ります。



農業塾を開催しています JA広島ゆたか

- 農業生産の拡大を目的に、農業塾を開催しています。
- 定年者を中心に農家育成を図るため、20年余り継続して実施しており、毎年約30名程度の参加者がいます。

水田からレモン団地への転換を支援しています JA広島ゆたか

- 担い手の育成と、レモン産地を拡大するため、荒廃した水田からレモン団地へ転換を図り、担い手の入植を支援しています。
- 事業は、行政主導で実施され、地域の理解もあり、今後も確実に農業生産の拡大をする。



レモンの安定販売へ取り組んでいます JA広島ゆたか

- レモンの販売単価をあげて、今後もレモン振興をはかるため、各種販売対策を実施しています。
- 年間販売体制を確立するため、レモンの個包装や、他県JA（JAあづみ）と農協間連携して、冷蔵庫を活用した夏場の販売強化に取り組んでいます。
- 生産者への支払い単価は、確実に毎年上がっており、生産者からも期待が大きい取り組みです。
- 今後も事業を継続し、更に拡大していきます。



営農販売推進委員会を開催しています JA広島ゆたか

- 地区代表の生産者の意見を取り入れ、産地振興に繋げるため、営農販売推進委員会を開催しています。
- 委員会では、農業振興方針を検討（理事会に提案）するとともに、かんきつ類の荷受け時期・種類等を協議・決定しています。



地域循環米「せらにしあきさかり」を法人と連携して生産しています JA尾道市

- JA尾道市・JA全農ひろしま・世羅町小国地区の4つの集落法人が連携した組織「おぐにフィールド」で、地域循環米「せらにしあきさかり」を生産しました。
- この地域循環米は世羅地区で製造された家畜ふん堆肥、もしくはそれを原料とした肥料を使用した循環型農法を用いて栽培しています。
- この米は、節減対象農薬と化学肥料（窒素成分）の使用回数を通常の2割以上削減して栽培された環境保全米として販売しています。



新規就農者の就農に向けて支援しています JA尾道市

- 就農者の確保と経営面積の拡大に向けて、支援をしています。
- 5年間の助成交付（年間150万円）を行っており、計画と実際の進捗を、サポートチーム（県・市・JA）で年間4回程度の状況確認調査を行い、新規就農者の問題点、課題解決に向けたサポートをしています。



尾道ブランド農産物認証の増加に取り組んでいます JA尾道市

- 尾道ブランド農産物認証制度は、認証をうけた生産部会が、認証農産物をブランド販売することにより、販売額の増加や、新規生産者の増加を目指す取り組みです。
- 令和元年度新たに『ぶどう』が認証され、いちじく・桃・トマト・スナップエンドウと併せ5品目となりました。
- 令和2年度には『わけぎ』が認証見込みであり、6品目となる予定です。



農業塾を開催しています JA尾道市

- 農業に関心を持っている方に対し、農業を始めるにあたりサポートや育成をすることを目的に農業塾を開催しています。
- 農業塾には「野菜園芸コース」、「果樹園芸コース」があり、それぞれ月1回の講義を開き、座学やJA試験圃場での実習などを行っています。
- 受講者の中には、生産部会や産直会員として活躍いただいている方もおられ、また、農業塾で基礎を学んだ後、より専門的な技術を磨くため専門塾を受講される方もおられます。
- 専門塾は「わけぎ」「アスパラガス」「柑橘」「いちじく」「ぶどう」において担い手の確保と新規栽培者の定着に努めています。
- 卒業後も早期に経営が安定するようサポート体制を整え個別対応を行っています。



加工品『はっさくシャーベット』発売しています JA尾道市

- 農産物を利用した新規加工品販売として、新たに『はっさくシャーベット』を販売しています。
- 『はっさくシャーベット』は商品名の通りご家庭の冷凍庫で冷やしてシャーベット状にしてください商品となっています。シャーベットの中には紅八朔が入っており、シャリシャリといった食感に紅八朔のジューシーな味わいを楽しむ事ができます。令和元年度の流通はJA道市管内での販売でありましたが、約36,000個の販売実績となりました。
- 購入者からは『はっさくゼリー』とは一味違った味わい・食感と好評をいただいています。



JA三原版「農業所得増大・地域活性化応援プログラム」を実施しました JA三原

- 農業者の所得増大等に向けて、「豪雨災害からの営農復興」「獣害防止」「土壌診断」「生産拡大・省力化」「新規就農者支援」を柱とした支援を行いました。



各地で「農業塾」を実施しています JA三原

- 白ねぎ・柑橘・落葉果樹について、生産者を支援するため基礎的な知識から規模拡大に向けた肥培管理まで幅広く農業塾を実施しています。



「大型規格の除草剤」特別キャンペーンを実施しました JA三原

- 使用機会が増える時期に合わせ、管内の量販店と価格で対抗できるキャンペーンを実施しました。



ドローンを活用した「水稻農薬散布」「柑橘園の防除試験」を行いました JA三原

- 水稻農薬散布については、粒剤散布が可能な機体を導入（テクノス三原）して生産者ニーズに応えるサービスの拡充、柑橘園については、農作業負担の軽減を目指した防除試験を実施しました。
- 生産者の高齢化による農作業負担の軽減のみならず、適期防除の推進による高品質化・安定生産に繋がりました。



「せとだレモン祭」で加工品を出店しました JA三原

- 加工品原材料の高値買取・継続買取を目指して、加工品ファンを獲得するために、直販センターの加工品を販売・PRしました。



三原市と共催で「みはら就農フェア 2019」を開催しました J A 三原

- 担い手を確保するために、三原市と共催で、就農に興味がある方が自治体や農業法人に直接相談できるイベントを開催、幅広い年齢層の参加者に訪れていただきました。



「FUKUYAMAふくふく市」を開設しました J A 福山市

- 多様な担い手の所得向上と、農業者と消費者との交流を図ることによる、地域の農業振興と地域活性化を目指して、「FUKUYAMAふくふく市」を開設しました。
令和2年1月末現在で、出荷登録会員は700名を超え、また、ポイント会員は6,595名となりました。
- 開設については、地域住民・生産者からも好評をいただいております。
- 今後は、出荷農畜産物の品目増加・出荷期間の延長に向けて取り組めます。



農畜産物の販売チャネルの多角化に取り組んでいます J A 福山市

- 農業者の所得向上・農業生産の拡大を目指して、市場、産直市、量販店、学校給食のほか、J A 直営の農産物直売所（ふくふく市）を開設して、販路の拡大に取り組んでいます。
- 今後は、特に直売所での販売と小・中学校給食への取り組みを強化する予定です。



生産資材コストの低減に取り組んでいます J A 福山市

- 生産資材（肥料・農薬）の価格低減による農業者の所得増大に取り組んでいます。
- 具体的には、水稻肥料・農薬でJ A 推奨品目を設定し、低価格で提供するとともに、一定金額以上の肥料・農薬購入者に対して、奨励金を還元しています。
- また、土壌診断に基づく適正施肥による、資材の低コスト化に取り組んでいます。



JA福山市「農業振興支援事業」を実施しています JA福山市

- 農業者の所得増大・農業生産の拡大に向けて、農業振興積立金を原資とした「農業振興支援事業」を実施しています。
 - ◆農業機械等への取得にかかる費用支援
 - ・農業法人・認定農業者等による農業機械等の取得にかかる事業費の10%以内を支援
 - ◆農業施設にかかる費用支援
 - ・農業法人等による栽培施設・設備、家畜の使用施設・設備の取得にかかる事業費の18%以内を支援、上限200万円
 - ◆鳥獣害対策にかかる費用支援
 - ・生産農家・農業法人等による防護資材・箱わな等の取得にかかる事業費の10%以内を支援
 - ・行政補助事業の対象者も含み、事業費5万円以上が対象
 - ◆認定新規就農者支援
 - ・就農開始後3年間の生産資材・出荷資材の取得にかかる事業費の10%以内を支援



沼隈農園（ブドウ栽培）を開園して担い手を育成しています JA福山市

- 次世代を担う新規就農者の育成支援としてJA福山市と沼隈町果樹園芸組合、JA広島果実連がH27年11月に広島県果樹農業振興対策センター沼隈農園を開園しました。
- 研修生は沼隈町のブドウ団地内の実習圃場を中心に土作りから栽培管理、出荷、流通まで一貫した研修を2年間受けます。これまで累計で11人が受講し6人が就農しました。



中古農業用資材・施設の情報を提供しています JA福山市

- 農業者の経費節減と所得増大を目指し使用されなくなった中古農業用資材の有効活用を進めるため、資材を必要としている人に紹介する情報提供サービスを行っています。
- 対象はビニールハウスや被服資材、収穫コンテナなどです。
- 高齢化などにより、不要となった農業用資材、施設を新規就農者や規模拡大を目指す農業者に紹介します。



株式会社JAファームふくやまと連携して生産者の労力軽減・耕作放棄地解消・職員の農業研修に取り組んでいます JA福山市

- 農業者の高齢化や後継者不足による耕作面積の減少に歯止めをかけ、持続可能な地域農業の実現のため、子会社の株式会社JAファームふくやまと連携して様々な取り組みを行っています。
- 農業経営事業では、生産から販売まで一貫して担う農業経営として、同法人自らが耕作放棄地を借り受け、栽培に適した土壌改良を行い、1.4haの圃場で10品目以上を栽培し学校給食やJAの産直市等へ出荷しています。
- 農作業受託にも取り組み、ドローンを使用した水田防除の受託面積は212haとなりました。
- JAの根幹である農業への意識改革として、新採用職員を対象に同法人の社員が講師となり農業体験事業を実施しました。田植えや野菜の収穫など年4回行い職員の知識向上を図りました
- また、若手営農指導員の育成研修を6月～1月の8か月間、毎週1回実施し、土壌改良や野菜の育苗技術、生育のステージごとの栽培管理、収穫・調整作業を実習形式で行い、営農指導員としての知識向上を図りました。



スマートフォン専用アプリ「旬みつけ！」の運用を開始しました JA広島北部

- 産直市から、旬の情報を消費者にタイムリーに届け、来店動機につながるため、スマートフォン専用アプリ「旬みつけ！」の運用を開始しました。
- 開始3か月で300名以上の登録者を獲得、売り場情報や広報担当からJA情報を配信しています。
- 利用者からは「お得で旬な情報をどんどん出してほしい」との声もいただいております、今後も積極的に情報を発信して、つい読みたくなるようなアプリに育てます。



米の契約栽培を実施しました JA三次

- 業務用米の需要に対して安定的な生産販売体制を構築し、生産者の所得確保を目的として、平成30年度より多収穫米（あきだわら）の複数年契約により取り組んでいます。
- 令和元年度の契約面積は、48haです。（平成30年度43ha）
- 今後も、新品種の導入や新たな契約栽培の企画により、面積拡大に取り組めます。

農業資金ニーズへの対応力を強化しました JA三次

- JAバンクメイン強化先への全先訪問を通じて、担い手農業者に対する金融商品等の提案・相談対応を行いました。
- 農業者の経営規模拡大において、設備（機械）の導入資金のためJAバンク利子補給・保証料助成制度の概要等を説明し、農業者に対し金融面の支援に取り組めました。
- 利子補給による利息の負担軽減、保証料全額助成による経費等の削減につながり、担い手農業者から所得増大の取り組みに評価をいただいています。
- 担い手ニーズに応じた金融商品の提案で、今後も農業者の支援に取り組んでいきます。

JA三次農青連が農商工福連携「唐辛子プロジェクト」に取り組んでいます JA三次

- JA三次農青連では、地元農産物のPRと「農商工福連携」を目的に、平成30年度から、「唐辛子プロジェクト」を実践しています。
- プロジェクトにおける農青連の役割は、地元の企業に加工品の原料として唐辛子の粉末を供給することです。
- そのため、令和元年度は7aの圃場に植えた約1,600本の唐辛子を収穫しました。また、障害者の就労支援を行っている事業所に唐辛子の摘果・選別作業を委託し、新たな人材の可能性として福祉との連携モデルの構築にも取り組んでいます。
- 作業委託を受けた事業所からは「冬場は作業が少ないので助かる。農業に接する機会が良い経験になるのでまた委託して欲しい」との声をいただいています。
- また加工品を作る企業からも、三次で作った品質（色、香り）の良い原料を使うことができPRにもなるのでありがたいと好評です。
- 農商工福連携により、農業の人手不足が解消され、障害者の就労支援に繋がるプロジェクトとして今後も継続していく予定です。



鳥獣被害防止の支援策を強化しました JA三次

- 農業生産基盤及び農村環境の保全・地域の活性化を図るため、鳥獣被害による耕作放棄地の拡大防止に取り組んでいます。
- 令和元年度は、有害獣被害防止事業の助成内容を充実しました。
 - ①助成率：購入金額 15%⇒20%
 - ②上限金額：最高 15,000 円⇒20,000 円へ変更
- 事業内容の充実に伴い、利用実績も増加しました。
 - 平成 30 年度 88 万円
 - 令和元年度 152 万円
- また、広島県鳥獣被害防止対策アドバイザーの養成を行い、研修会を実施しました。（令和元年 8 月実施）
 - 平成 30 年度末 累計資格取得者 チーフアドバイザー 2 名
 - アドバイザー 30 名
- 今後も継続して実施する予定です。



JA三次農業塾「あすなろう塾」を開催しました JA三次

- 管内の農業を志す定年退職者や新規就農者等が農業生産や経営の基礎を学ぶことができるよう、野菜・花・加工品などの栽培や販売の基本を学ぶ「短期基本コース（全 5 回）」とハウス栽培や販売の専門知識を学ぶ「専門コース（全 10 回）」の 2 コースを開講しています。
- 令和元年度は 19 期目となり、34 名が受講しました。
- これまで、平成 13 年より 19 年にわたり累計 385 名が受講され、このうち約半数の卒業生が新たな農業の担い手として、産直等への出荷や振興作物の生産・販売に取り組んでおられます。
- 地域からも、地域農業への振興に対し評価をいただいております、今後も継続して実施する予定です。



都市と農村交流で地元産農畜産物のPRを行いました JA三次

- 「参加者自ら三次をPRしたくなる」をテーマに、三次の農畜産物のファンづくりと都市と農村交流を目的に、収穫体験イベントを年2回開催しました。
- 令和元年8月に開催したアスパラ収穫体験（アスパラ肉巻き・パエリアづくり・竹製水鉄砲づくり）には、広島県内や東京から家族連れ40人が、また、11月に開催した白ネギ収穫体験（新米竹ごはん・take-1グランプリ）には、広島市など県内から26人が参加しました。
- 収穫体験自体が都市では難しいので、土や野菜と触れること、また収穫したてのアスパラや白ネギの美味しさに、多くの参加者が感動されました。
- また、実施後のアンケートではほぼ全員の参加者が「また参加したい」と回答され、大変喜んでいただきました。
- 参加者アンケートの意見を取り入れながら、都市住民や消費者等と広く接点を持つインターネット等を活用した募集を行い、今後も継続して実施する予定です。



JA三次ふるさと祭グリーンフェスタ2019で農産物品評会の表彰を行いました JA三次

- 農産物の品質向上と農家の生産意欲向上を図るため、ふるさと祭で農産物品評会を行いました。
- 品評会には管内の生産者から502点の出品があり、ふるさと祭会場内で展示された後、セリ方式で販売しました。販売で得た収益金43,675円については、募金として寄付しました。
- また、令和元年度に初めて金賞受賞者（4名・5点）に対してステージ上で表彰式を行いました。
- 金賞を受賞した生産者からは、「努力が認められ嬉しい」と好評でした。生産者の励みとなり、JAの営農指導に対する理解促進にも繋がるため、今後も継続して実施する予定です。



結びつき米「広島県庄原産高野こしひかり」を開発しました JA庄原

- 高野町を産地指定した精米商品「広島県庄原産高野こしひかり」の販売を開始しました。



比婆牛を使ったソーセージを開発しました JA庄原

- JAでは、比婆牛ブランドの確立に向け、増頭対策と販売強化を進めています。
- 販売強化の一つとして、加工品による付加価値の向上と宣伝効果に着目し、精肉より保存ができ、手軽に購入できる“ソーセージ”を開発しました。



水稻高密度播種苗の供給を開始しました JA庄原

- 苗箱数の大幅減と、田植え作業の省力化やコスト低減につなげるため、高密度播種苗（密苗）の供給を開始しました。



ポスタータイプの「水稻栽培ごよみ」を作成しました JA庄原

- 平成30年まで肥料、農薬の予約注文書と一体の冊子だったものを、「大きく見やすいごよみが欲しい」との要望を受け、従来の4倍の大きさとカラーの「水稻栽培ごよみ」を作成しました。



広島ハイウェイ商談会を開催しました JA広島信連

- 広島県の生産者・農林水産業者のビジネス機会を創出して、農業者の所得向上につなげるため、商談会を実施しました。
- 商談会は、西日本高速道路株式会社と西日本高速道路サービス・ホールディングスと連携し、広島県の生産者等40社、中国地区のSA・PAを運営するテナント12業者が参加して、計138件の商談会が行われました。
- 事前予約型個別商談方式により、セラーとバイヤーのニーズを事前に調整したことで、14.5%と高い成約率となり、参加者から好評をいただきました。
- 今後は、参加したセラーに対して、販路拡大等の個別支援や資金提供等へ展開していきます。



農業経営者セミナーを開催しました JA広島信連

- 農業経営者の様々な経営課題をサポートして、農業経営者の生産意欲の向上を図ることに、JAグループ自己改革の最重点実施事項である農業者の所得増大・農業生産の拡大に繋げる、具体的な取り組みの一つとして、中央会と連携し、(一社)広島県農業会議の共催により、農業経営者セミナーを開催しました。
- 令和元年7月～令和2年1月までの間、個人生産者・農業法人経営者を対象に、農業経営の安定・高度化に資する「会計・税務」「経営分析」「労務管理」等をテーマとして、計7回実施しました。
- 講師による豊富な現場経験を事例とした講演は、参加者から大変好評で、令和2年度も引き続き開催を予定しております。

JAバンク広島利子補給制度を実施しています JA広島信連

- 広島県の農業振興を図り、地域営農の発展と農業者の所得向上を支援するため、JAで農業に関する資金を借入する生産者に対して、金利負担を軽減する利子補給制度を実施しています。
- 制度は、対象となる資金の借入日から最長3年間（農業近代化資金は最長5年間）、最大年1.00%の利子補給を行うもので、制度を利用する生産者からは、農業経営の一助となる等の評価を得ています。



JA 農業資金保証料助成制度を実施しています JA 広島信連

- 広島県の農業振興を図り、地域営農の発展と農業者の所得向上を支援するため、JAで農業に関する資金を借入する生産者に対して、保証料負担を軽減する制度を実施しています。
- 制度は、対象となる資金の借入時に一括して支払った保証料相当額を、原則、借入月の翌々月に、借入資金の返済用貯金口座へ入金するもので、制度を利用する生産者からは、農業経営の一助となる等の評価を得ています。



事業性評価を通じた課題解決策を提供して農業者の所得向上に取り組んでいます JA 広島信連

- 地域の核となる生産者・農業法人等に対する、経営分析・経営課題解決策の提案・実践支援・適切な資金対応を通じて、所得向上に向けて取り組んでいます。
- 当該生産者から、この農業経営に係る課題解決に向けた取り組みについて、高い評価をいただいております。令和2年度も継続して実施します。

3-R（さんあーる）販売開始しました JA 全農ひろしま

- 広島県の美しい田園や里山の風景、そこで生産される農畜産物と、人々の営み。地域にとってかけがえのない魅力を未来へつないでいくため＜環境保全型農業＞に取り組むことが必要です。
- そこでJA全農ひろしまでは、耕畜連携を軸とした資源循環型ブランド「3-R」（さん・あーる）を立ち上げました。
- 3-Rとは、畜産で生まれた堆肥を農作物や飼料用作物を栽培するための＜肥料＞として、「再利用（RECYCLING）」する「資源（RESOURCE）循環型農業」から生産された農畜産物の証となるブランドマークです。この3-R活動を「繰り返す（REPEAT）」ことで、地域の環境保全につなげていきます。
- 米・野菜・鶏卵・肉の3-R商品について、とれたて元気市広島店・とれたて元気市となりの農家店で販売しており、今後、品目・売り場を拡大していきます。



JAファーマーズ・マーケットを起点とした農と協同の地域づくりに取り組んでいます JA全農ひろしま

- JA広島中央とJA全農ひろしまの協同事業体方式による「とれたて元気市 となりの農家店」をオープンしました。
- 単位JAと全農による協同事業体方式の産直市運営は全国でも初めての試みです。地域に根ざしたJAと県域で事業を行う県本部の強みを生かし、JA域を越えて農産物を供給するなど、農業者の所得増大、地域活性化を目指します。
- また、「とれたて元気市 となりの農家店」並びに「Fukuyamaふくふく市」内に、JA全農ひろしま直営の精肉店「JAのお肉屋さん」を出店し、来客増加を図っています。



スマート農業の実証と普及拡大を図っています JA全農ひろしま

- 三原市の直営実証圃場で、営農管理システム「Z-GIS」や「完全自動飛行ドローン」をはじめとする最新機器の実演を、生産者やJA営農指導員、報道機関に対して行いました。
- また、水稻水管理支援システムやラジコン草刈り機、無人トラクターなどの実証試験・実演を通じて、農作業の省力化や生産技術の可視化を図ることで、持続可能な広島県農業の実現を目指して取り組んでいます。





「地域の活性化」

への取り組み

地域行事に積極的に参加しています JA広島市

- 農業祭の開催、区民祭り等への参加や、各種地域イベントへの協賛・後援等を通じ、地域のみなさまの農業に対する理解の促進や、地域活性化のお手伝いを行っています。



食農教育に取り組んでいます JA広島市

- 「そだてる、つくる、たべる」の一貫した流れの中で、食のあり方、農のあり方、命の尊さを学ぶ「JA広島市食農教育プラン」に取り組んでいます。
- 食農教育プランでは、実践を通じて、子どもたちの健全な育成支援に努めるとともに、「食」と食を支える「農」への理解浸透に取り組んでいます。



レディースクラブの活動 JA広島市

- 令和元年度から1支部増えて50支部、総勢4,700名の会員からなるJA広島市レディースクラブは、「JA女性 地域で輝け 50万パワー☆」をテーマに活動しています。
- 地産地消運動や食農教育といった食と農を基軸とした活動を通じて、地域における協同活動の展開や明るく住みよい社会づくりに貢献する活動に取り組んでいます。



JA YOUTH 広島市の活動 JA広島市

- JA広島市管内の若手農業従事者で組織するJA YOUTH広島市は、農業の振興・活性化を図るとともに、子どもたちの体験学習受入れなど農業への理解を深める活動にも取り組んでいます。



各種無料相談会を開催しました JA広島市

- 年金のコンサルタントによる各地区での年金相談会をはじめ、顧問税理士・顧問弁護士等の専門家によるセミナー開催など、組合員のみなさまの生活全般に対する相談業務を行っています。

JA広島総合病院と連携して地域生活習慣病予防検診を実施しています JA広島市

- 組合員と地域のみなさまが健康に生活していけるよう、JA広島総合病院と連携し地域生活習慣病予防健診を実施しています。

地域に根ざした福祉活動を展開しています JA広島市

- JA広島市助け合いの会「ふれあい倶楽部」では、心身機能活性運動療法を取り入れた取り組みなど、会員によるボランティア活動を行っています。
- また、訪問介護事業と連携した有償サービスや高齢者の集いの場となるミニデイサービスを実施するなど、地域に根ざした福祉活動を展開しています。

健康増進ウォーキングを開催しました JA佐伯中央

- 組合員や地域住民の健康増進、地域の活性化を目的に、健康増進ウォーキングを開催しました。
- ウォーキングという参加しやすいイベントを通じて、**役職員と参加者とが**交流・コミュニケーションを持ち、地域に密着したJAをアピールしました。
- 健康増進の企画として好評をいただきましたが、あわせて「これからも変わらず地域に貢献するJAであってほしい」「身近なJAであってほしい」との意見をいただき、今後も組合員・地域住民とJAが一体となった取り組みを行い、JAをPRしていきます。



「そう君となっちゃんの畑の学校（食農教育）」を開催しました JA佐伯中央

- 農業への興味や魅力を持っていただき、農業の大切さや地産地消を知ってもらうとともに、次世代のJAファンづくりを目指して、親子参加型の食農教育を実施しました。
- ジャガイモ・サツマイモの植付・収穫、プランターでの野菜づくり、味噌づくりなど5回の農業体験を実施して、「農業を体験して子供が野菜をよく食べるようになった」「JAを身近に感じるようになった」とのご意見をいただきました。



JAカップ佐伯中央サッカー大会を開催しました JA佐伯中央

- 試合経験の少ない小学校低学年向けの大会を開催することで、子供たちに今以上にサッカーを好きになってもらうこと、あわせて、JAとの関係が希薄な子育て世代・若い世代へのJAのPRを目的にサッカー大会を開催しました。
- サッカークラブの監督・コーチから、子供たちが楽しみにしている大会、大会開催だけではなく食事等多くのもてなしに感謝しているとの声をいただき、継続して大会を開催できるよう努力していきます。



「ためまっぷ」を活用して地域に情報発信しています JA佐伯中央

- JA広報誌以外でも、身近で開催しているJAのイベントをPRして参加してもらえよう、web 掲示板「ためまっぷ」を活用して情報を発信しています。
- また、シニア世代を対象に「ためまっぷ」を閲覧していただくために、スマートフォン講座を開催しました。
- 今まで知らなかったJAのイベントを知ることができたと好評をいただき、支店からも、来店が増えたとの回答がありました。
- 掲載イベントの増加を図るとともに、今後も閲覧していただくため、スマートフォン講座の開催を増やしていきます。



JA佐伯中央はためまっぷで農業やイベント情報を発信していきます!

JA佐伯中央では、農業やイベント情報を発信していきます!

「食と農と地域」に貢献するJAに私たちはなりたい!

JA佐伯中央 × ためまっぷ

地域に密着したJAとして、組合員や地域住民のニーズに合った相談会を開催しました JA安芸

- 年金相談会や仏事セミナー、承継セミナーなど組合員や地域住民のニーズに合った相談会を開催しています。
- 参加者からは「気軽に参加でき、仏事などいまさら聞けない事など知ることができる」と好評です。



「JA安芸助けあい組織いきいき百歳クラブ」の活動により地域に助けあいの輪が広がっています JA安芸

- 助けあい組織「いきいき百歳クラブ」が支店をよりどころとして地域で活動を行っています。
- 「住み慣れた地域で誰もが安心して心豊かに暮らし、健康寿命を延ばすこと」を目的とし、毎週1回介護予防のための体操などを行っています。



農業体験や食育活動など食農教育イベントを開催しています JA安芸

- 小学校で児童を対象に稲づくり体験を実施しています。校内に田んぼを作り、代掻きから田植え、稲刈り、脱穀等一連の作業を通じて食と農の大切さを次世代に伝える取り組みを行っています。
- 親子向けの農業体験「稲づくり体験」や地元の農産物を収穫する「野菜収穫体験」など開催し、地産地消や食と農の大切さを伝える活動に取り組んでいます。地域の農家や農業青壮年連盟、女性部の協力を得て開催することで、消費者と各組織やJAとのきずなづくりとなっています。
- また、「ちゃぐりんフェスタ」を同時開催し、食と農やJAについて親しみを持ってもらい理解を深める活動を行っています。



特産の「黒枝豆」のオーナー制度を設け、地元農産物のおいしさや大切さを伝えていきます JA安芸

- 農家の方が育てた熊野町特産物黒大豆の枝豆「黒枝豆」の畑を区画して提供するもので「黒枝豆」の畑のオーナーになって収穫をしていただく制度です。
- 自分で収穫することで、地元特産物のおいしさや農作業の大変さなど体験していただき、食と農の大切さを伝えていきます。



移動金融店舗車両「ふれあい号」を稼働し、きめ細やかな金融サービスを提供しています JA安芸

- 週に2日、移動金融店舗車両「ふれあい号」を統廃合した旧店舗で稼働し、組合員や地域住民へきめ細やかな金融サービスを提供しています。



地域住民や組合員、女性部が誌面に登場する支店広報誌を作成して配布し、きずなを深めるふれあい訪問活動を行っています JA安芸

- 地域住民や組合員、女性部などに情報を得て作成する地域に密着した支店広報誌を発行し、訪問活動のツールとして配布しています。
- 地域住民や組合員とのより強固なきずなづくりにつながっています。



支店を拠点に「健康大学」を開校し、地域住民の健康と暮らしを守る講座を開催しています JA安芸

- 各支店を拠点に毎月1回健康に関する講座などを行う「健康大学」を開校し、令和元年度で37年目を迎えました。
- 料理や手芸、健康講座、体操など組織主体で講座など開き、活動を行っています。
- 毎月地域住民が集まる健康大学は支店を拠点に地域のよりどころとして仲間づくりの輪が広がっています。



地元大学生がオリジナルレシピを発表しました JA呉

- 広島国際大学呉キャンパスで、地元農産物を使用したオリジナルレシピの発表会を行いました。
- レシピは、生産者を訪ね現場を知った学生たちが試行錯誤を重ねて完成させました。考案したレシピは、新入生歓迎会等の学校行事で提供しています。また、JAくれまつりでも試食会を行い、好評でした。
- JAの地産地消事業として、学生たちに地元の特産や生産者を知ってもらい、かつ地元住民にPRするため2016年より毎年開催、今後も継続する予定です。



支店ふれあい委員会によるふれあい活動を展開しています JA呉

- 組合員や地域の皆様とのつながりをより深めるため、支店協同活動に取り組んでいます。
- 4支店に支店ふれあい委員会を設置して、感謝祭などのイベントの開催や参加など積極的な活動を展開しています。
- ふれあい感謝祭は好評で、地域住民にも大変喜ばれています。
- 今後は、全支店にふれあい員会を設置し、より身近なふれあい活動を展開していきます。



支店ふれあい委員会で積極的に活動しています JA広島中央

- 組合員や地域住民とつながりをより深めるため、平成27年度より「支店ふれあい委員会」を設置し、活動に取り組んでいます。
- 令和元年度は、農業体験・食育関係や祭り、健康に関することなど80活動約9,000人に参加いただきました。
- また地域行事などへも積極的に参加しJAのPRを行っています。
- 地域の皆さまからは、普段体験できない農業体験などに好評をいただいています。
- 引き続き皆様に喜ばれ、望まれる活動を実施していきます。



支店ふれあい活動の充実を図っています JA広島中央

- 令和元年度より、支店ふれあい活動の際に参加者に“アンケート”を実施しています。回答いただいた参加者のうち、80%程度に満足いただいている、ということがわかりました。
- 一方で、良い評価をいただいているが、農業に関する体験（栽培・収穫等）や、親子で参加できる食農食育・料理等の活動に対して期待・要望も大きいこともわかりました。
- 活動をマンネリ化することなく、このアンケート結果を参考として、参加者から喜ばれる各支店の実情にあった活動をふれあい委員と一緒に計画をしていきます。



移動購買車を運行しています JA広島ゆたか

- 地域住民のライフライン確保のため、管内で3台の移動購買車を運行しています。
- 生活弱者への対応として組合員・地域住民の評価も高く、収益性を判断しながらとなりますが、継続して運行する予定です。

地域貢献活動の一環として大型テント・車椅子・ジャンパーを寄贈しました JA尾道市

- JA尾道市はJA共済連広島と連携した地域貢献活動の一環として、尾道市御調町の7地区の公民館へ大型テントを寄贈しました。
- 寄贈した大型テントはワンタッチ式の大型軽量テントで、付属品の加重プレートで固定するものになっています。
- また、不足している備品の寄贈ということでJA尾道総合病院へ車椅子を寄贈しました。
- さらに、鳥獣害被害が深刻化する中、後継者不足の観点から多くの人に狩猟を深く理解してもらい、次世代に狩猟技術を継承しようと、令和元年度狩猟フォーラムIN尾道において尾道地区猟友会に猟友会のカラーに合わせてオレンジ色のジャンパーを50着寄贈しました。



家の光ミニクッキングフェスタを開催しました JA尾道市

- JA尾道市女性部は「食の大切さ」「食を支える農業の役割」「地域の食文化」「いのちと健康の尊さ」の理解を広めていくために「家の光ミニクッキングフェスタ」をJA尾道市東尾道経済事業本部で開催しました。
- このフェスタでは、全国女性組織協議会の呼びかけで47都道府県が一同に「スポーツを頑張る子どもたちを応援する井」をテーマに考えられた井『世羅やさいの鶏井』をJA役職員、親子連れ含めて57人が出席し試食しました。



尾道高校ラグビー部にジュース贈呈しました JA尾道市

- JA尾道市はJA共済連広島と連携した地域貢献活動の一環として、第99回全国高等学校ラグビーフットボール大会へ出場する学校法人尾道学園尾道高等学校ラグビー部へ、必勝祈願と書かれた「JAひろしまの藻塩レモン水」を1,200本、丹下和博組合長から、ラグビー部監督の田中春助教諭に贈呈しました。



各種イベントを開催しました JA三原

- 夏祭り、グラウンド・ゴルフ大会、ふれあいフェア等を開催して、JA役職員と生産者や関係団体、地域住民並びに消費者と交流し、相互の理解を深め、地産地消の推進やJA活動の理解促進を図りました。
- ふれあいフェア等では、住環境の展示や、年金・相続・葬祭についての相談窓口を設置して、地域住民の方が気軽に相談できる場を設けました。



「健康セミナー」を開催しました JA三原

- 生活習慣を振り返っていただくために、専門家を招いて健康セミナーを開催しました。
- 参加者の多くは女性で「健康志向のメディア放送が多い中、専門家から直接話を聞けて良かった。聞いたことを工夫しながら、生活に取り入れたい。」と好評でした。



「料理教室」を開催しました JA三原

- 「地産地消」や「健康づくり」と関連した料理教室を開催しました。
- また、親子で「食と農」の大切さを学んでいただく「親子で料理教室」を開催し、地元産の食材を用いた料理を一緒に作りました。



「親子で農作業体験」を開催しました JA三原

- ジャガイモの植え付け・収穫・料理教室や、稲の田植え～稲刈り、夏野菜の収穫などを体験していただきました。
- 参加者が平成30年度の2倍になるとともに、初めて体験する農作業に「貴重な体験となった」と好評でした。



地元小学校で「農作業体験の出前授業」を行いました JA三原

- 農作業体験を通じて「食と農」の繋がりを学んでもらうため、小学校2年生を対象に、田植え・稲刈り・脱穀・籾摺り・精米について出前授業を行いました。



移動購買車の運行を開始しました JA三原

- 離島である佐木島で、ライフライン確保のため食料品や生活必需品を購入いただける移動購買車の運行を開始しました。高齢化が進む佐木島において「安心して購入できる」「新鮮な食料品が手に入る」と好評をいただいております。



支店運営委員会を設置して支店協同活動を実施しています JA福山市

- 支店を拠点に、地域住民の方々と力をあわせて、農業体験やボランティア活動を実施、交流を深めています。



親子での農業体験を実施しました JA福山市

- 田植え・稲刈りの体験を通じて、生産者との交流を深めるとともに、食農教育に取り組みました。
- 令和2年度以降も継続して実施する予定です。

子供向け食農教育活動「あぐりスクール」を開校しています JA福山市

- 次世代を担う子供たちに農業の魅力や自然環境、食べ物の大切さを学んでもらう食農教育活動として「あぐりスクール」を開校しています。
- 令和元年度は10回の講座を実施して、野菜作りやブドウの収穫など農作物が成長する過程を実際に見て体験して学びました。



J A福山市女性大学「いきいきレディースカレッジ」を開校しています J A福山市

- 管内の女性を対象に、学びの場を提供することにより、仲間作りと知識の向上を図るとともに、女性部組織の活性化、加入促進、J Aファン作りを目的として開校しています。
- カレッジでは営農・生活・健康・教育文化などの講座を年間6回、2コース実施しました。
- 参加者からは、J Aを身近に感じる事ができた・参加してとてもよかったと、好評をいただいています。



食と農の交流館クッキングスタジオを活用して各種料理教室を開催しています J A福山市

- 地域住民とJ Aのつながりの強化のため、F U K U Y A M A ふくふく市に隣接したクッキングスタジオを活用して、料理教室を開催しています。
- また、次世代のJ Aファン作りを目的として、離乳食や幼児食など、子育て世代に特化した料理教室も開催しました。
- 産直市に隣接したクッキングスタジオを活用することで、地元食材への理解を深めていただくことができました。
- また、紹介されたレシピの食材がすぐに入手できるので嬉しい、子供を連れて参加できる料理教室があまりないので、ありがたいなどの意見をいただいております、引き続き各種料理教室を開催する予定です。



Aコープ西日本が運行する移動スーパー「とくし丸」の積極的支援に取り組みました JA三次

- 買い物に行くことが困難な方のライフラインを確保して、豊かな日常生活を過ごしていただくことを目的に、Aコープが実施する移動購買車の導入をバックアップしました。
- 事前準備の1つとして、JA三次女性部が「とくし丸」巡回コース予定の地域の買い物弱者を訪問しPRすることで、地域に根差した形で運行を開始することができました。
- 令和元年9月に1号車が、12月に2号車が運行開始し、それぞれ1日平均約30人の利用があります。
- 利用者からは、「タクシーを利用して買い物をしていたので大変助かる。」と好評を得ており、地元新聞にも大きく取り上げられ、高齢化が進む地域で注目度の高い取り組みとして期待を集めています。
- Aコープ西日本の運行体制に今後も支援を行っていく予定です。



JA共済連と連携した地域活性化イベント「JA三次キッズまつり」を開催しました JA三次

- JA共済連と連携して、地域の賑わい創出と交流の場提供による地域貢献を目的に、子育て世代や若年層を対象とした「JA三次キッズまつり」を開催しました。
- 令和元年8月3日（土）に商業施設「三次CCプラザ」で開催し、約2,000名の方が来場されました。
- イベント内容は、ウォーターライダー、かき氷の販売、アンパンマンショー、食と農の出前授業、親子参加型体験教室（オリジナルうちわ作り）、農家さんへのメッセージ、クイズラリーによる三次産野菜の詰め合わせプレゼント等盛り沢山の内容でしたが、アンパンマンショー等、根強い人気のイベントが多く来場者には大変好評でした。
- また、新たに親子参加型の出前授業を行い三次産農産物のPRを楽しんでもらいながら行うことができました。
- 会場のアンケートでは参加したいJAの活動として、地域の祭りや食と農のイベント、親子体験等が多く、今後の事業運営にも工夫をこらして地域の活性化に貢献したいと考えています。



子どもの農業体験活動を中心とした食農教育の実践に取り組んでいます JA三次

- 女性部や地域住民と連携して、農業体験を通じた「食と農」に関する知識習得と健全な食生活に資するため、子どもたちを対象とした食農教育に取り組んでいます。
- 具体的には、「ちゃぐりんキッズクラブ」実施要領に基づき、支店単位で農産物の生産から収穫までの農作業や、雑誌「ちゃぐりん」等の教材本を活用した体験学習を行っています。
- 平成30年度は17会場で延べ実施回数84回、親子・支援者を併せて2,738名の方に参加いただき、児童からは大変好評で、各会場の収穫祭等に感謝の言葉等をいただいております。地域一体となった支援が根付いています。
- 今後も女性部や地域住民と協力し、未来を担う次世代へ食農教育に取り組んでいく予定です。



連合会・関連会社等と連携した「JA三次終活フェスタ みよシニア」を開催しました JA三次

- JA共済連広島、JA広島信連とJA広島厚生連、(株)JAアスク、JA三次女性部と連携し、組合員、地域住民の方に「終活」を知ってもらう機会として終活イベントを開催しました。
- 平成31年3月に近隣の商業施設「三次CCプラザ」で開催し、約200名の方が来場されました。
- 共済を活用した相続対策、エンディングノートの書き方セミナー、税理士による相談コーナー、遺影撮影会、介護食体験、物忘れ検査、女性部の作品展示等、会場内に各ブースを設けミニセミナーや個別相談を行い、来場者に介護・葬儀・相続について知ってもらう機会として開催しました。また来場のしやすさを考え、ステージでは相続セミナーだけでなく神楽、芸能人の歌謡ショー等を行いました。
- 会場内のブースでは説明を熱心に聞く来場者も多く見受けられ、終活への関心の高さが伺えました。アンケートでも、次回開催を望む声が多くありました。
- 今後もJA共済連広島・JA広島信連や連合会、関連会社や女性部と連携し継続し取り組んでいく予定です。



「支店だより」による地域への積極的な情報発信と絆づくりに取り組んでいます JA三次

- 支店と組合員・地域住民を繋ぐコミュニケーションツールとして重要な役割を担い、JAのさまざまな活動を知ってもらう情報伝達の手段として、全支店で支店だよりを発行しています。
- 全 11 支店で「支店だより」を発行し、継続的に地域の身近な情報発信に取り組んでいます。

＜延べ発行回数＞

- ・平成 30 年度：105 回
- ・令和元年度：50 回（9 月末）

平成 30 年度：第 1 回 JA グループ広島「支店広報誌コンクール」で最優秀賞を東部支店が受賞

令和元年度：第 2 回 JA グループ広島「支店広報誌コンクール」で最優秀賞を三和支店が受賞

- 配布している組合員からは、「毎月楽しみにしている」や「子どもの活動を支店だよりで知ることかできた」等、多くの声が寄せられています。また、支店窓口で支店だよりの記事が話題になり、組合員・地域住民とのコミュニケーションツールとして大きな役割を果たしています。



支店活動活性化委員会による支店行動計画の実践に取り組みました JA三次

- 支店を地域の拠り所として位置付け、協同活動を実践することで、地域の活性化に取り組んでいます。
- その取り組みの一環として、全 11 支店で支店活動活性化委員会を設置し、地域特性に応じた支店行動計画を策定して、グラウンドゴルフ大会や来店感謝祭等の支店イベントを開催しました。
- 地域に根差したイベントとして組合員・地域住民に定着しており、引き続き、地域特性に応じた支店イベントを地域の方や女性部の協力のもと取り組んでいきます。



定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業を実施しています JA三次

- 「住み慣れた地域、自宅で暮らしたい」という組合員・利用者の願いに応えるため、24時間対応の介護サービス「定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業」を実施しています。
- 年々利用者数も増えており（月平均利用者：平成29年度5.2人→令和元年度上期20.5人）、介護や医療が必要な方でも自宅での生活を送ることができています。
- 今後も、医療が必要な方でも、安心して自宅で生活することができるよう、医療を始め関係機関と連携を図り、在宅生活をサポートします。



JA三次女性部フレッシュミドル・ミズ部会でおせち料理づくりを行っています JA三次

- 女性部員が協力しおせち料理作りを行うことで、伝統食の継承に取り組んでいます。
- お正月に家庭で食べるおせちを、前日の大晦日に部員が集まって作ることで品数豊富なおせち料理を安く作ることができました。また、部員同士の情報共有の場としてLINEを活用し、メニューの提案や自家野菜の提供等の事前準備、また活動後の感想を出し合い次年度の活動に役立てています。
- 参加者した部員からは、「皆でやるからやれる」「買うものだと思っていたおせちが作れた」など大変好評です。
- 部員の意見を活かしながら今後も取り組んでいく予定です。



あぐりスクールを開講しました JA庄原

- 農青連、女性部と連携をとりながら食と農の大切さを親子で学ぶ「あぐりスクール」を開講しています。
- サツマイモの植付から収穫、工作や課外活動等のカリキュラムを行いました。



JA庄原女子カレッジを開講しました JA庄原

- 管内の女性を対象に、料理や文化、健康などについて楽しく学び、心豊かにイキイキと過ごせるよう「JA庄原女子カレッジ」を開講しています。
- 手芸や料理、スイーツづくり等を行いました。



農業日帰り体験企画「グリーンツーリズム34」を開催しました JA庄原

- 農業や農産物に関心が高い親子や就農を考える学生を中心に、日帰り農業体験企画「グリーンツーリズム34」を開催しました。
- キャベツの定植などの体験や農業者との交流を通して、農業や農村への理解を深めました。



女性部に広島菜加工場での作業を依頼しました JA庄原

- 人口減少や高齢化で労働力の確保が難しくなる中で、短期間の労働を女性部に依頼する取り組みを始めました。
- 女性部の活動や生活の妨げにならないよう、協議を行い実施しました。

JAバンク食農教育応援事業を実施しました JA広島信連

- 次世代を担う子供への食農教育・環境教育等の活動により、農業への理解を広げるとともに地域の活性化に貢献するため、JA等が、園児・小学生・中学生・特別支援学校の生徒・家族、教諭を対象に、食農・環境・金融経済の教育活動を実践する際に、活動資金の一部を助成しています。
- JA・組合員のみならず、保護者等からも農業への理解促進等に繋がる取り組みであると評価をいただいております。

ひろしまクロスカントリー大会に協賛しています JA全農ひろしま

- 庄原市内で開かれた第20回ひろしまクロスカントリー大会（広島県陸上競技協会、庄原市などが主催）に協賛し、参加者全員に県産果汁飲料「ひろしまの藻塩はっさく水」を提供し、好評をいただきました。
- JA全農ひろしまは、スポーツを頑張るすべての人達を「ひろしまの食」を通じてサポートしていきます。



災害対応

災害協力協定を締結しました J A広島市

- 支店施設を災害時における避難場所とする災害協力協定を、本年11月に久地南支店と地域の自治会が締結しました。
- J A広島市と自治会との災害協力協定は落合支店、水内支店、小河原支店に続き、4店舗目となります。



災害時緊急避難施設としての使用に関する協定書を締結しました J A安芸

- 施設を災害時における避難場所とする災害協定書を令和2年2月末現在で本店と支店1店舗の2施設で行政等と締結しています。

女性部・J A役職員の合同防災教室を開催しました J A呉

- 西日本豪雨災害から1年が過ぎ、日常的に防災意識を高めようと防災教室を開催しました。
- 防災士広島県自主防災アドバイザーを招き、江田島地区と呉地区で防災教室を開催、両会場あわせて、女性部員117名と役職員17名が参加しました。
- 防災教室では、自然災害や防災知識についてクイズを交えて学習し、楽しみながらできたと高評価でした。



千葉県災害支援隊に職員を派遣しました J A呉

- J Aグループ広島の千葉県災害支援隊にJ A呉から職員1名を派遣しました。
- 現場では、支援隊の最年少職員として仲間と協力し、被災地域のビニールハウスの立て直しや土砂の撤去作業に尽力しました。
- 地域住民から大変感謝され、今後も災害支援隊要請等があれば、職員を派遣していきます。



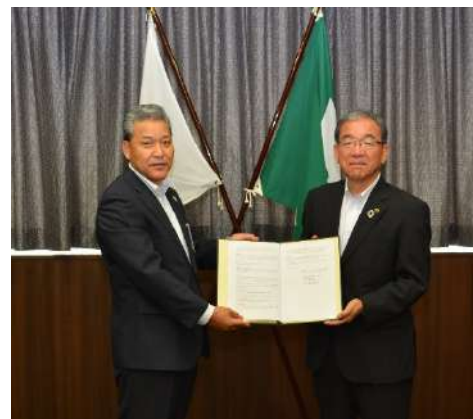
農地の復旧に向け職員派遣・助成金支給をおこないました JA広島中央

- 平成30年7月豪雨災害による被災農地に対して、農地復旧のために職員を派遣しました。
- また、生産者に災害助成金を支給しました。
- 協同組合としての災害復旧支援に評価をいただきましたが、農地の完全復旧にはまだまだ遠く、行政への支援要請等も含め、今後も関係機関と連携して取り組みます。



災害時における施設の利用及び備蓄物品の保管・整備にかかる協定を締結しました JA広島中央

- 当JAの管内（東広島市志和町志和堀地区）において、市の避難施設が土砂災害警戒区域にあることから、地元組合員の要望により、安全区域にある当JA施設（志和グリーンセンター）を避難所として有効に活用いただくことを目的として令和元年に協定を締結し、当該年度においては、計3回避難所として活用されました。
- 地元組合員からの要望を受けての対応であり、実際に3回の避難所開設があったことは一定の評価を受けていると認識していますが、避難所としての開設および運営の主体が、JAであるとの誤解により、当JAへの開設の判断状況などの問い合わせや、早期開設希望にかかる苦情など、諸所の課題も判明しました。
- 課題への対応について、今後も行政機関と連絡を密に対応する必要があると考えています。
- 一方で、JAとして地域貢献をする観点等から他地区からも同様の要望があった場合、設置への検討を行ったうえで協定締結に向けて取り組みます。



千葉県へ支援隊を派遣しました JA尾道市

- JAグループ支援隊として、JA尾道市から3名の職員が台風15号により甚大な被害が発生した千葉県館山市に、災害ボランティアとして参加しました。
- 千葉県では被害が広範囲に及ぶとともに、台風19号によるさらなる被害もあり長期的支援を実施する人員が不足していました。
- 現地では、JA安房管内の花弁栽培農家のビニールハウスやガラスハウスの解体、撤去活動をしましたが、花弁がまだ残っているながらも撤去せざる得ない状況で、被害の大きさを改めて認識しました。



三原市長と意見交換をしました JA三原

- 三原市の天満市長と「平成30年7月豪雨」からの復興支援、農産物の生産振興や産地育成など、農業振興についての意見を交換し、連携を強化しました。
- また、農業経営者の育成や柑橘経営の規模拡大のリスク軽減、産地の活性化に向けた取り組みについても意見を交換しました。



稲作の作付け再開に向けて始動しました JA三原

- 平成30年7月豪雨で土砂が流入・堆積した圃場で、水稻の作付けを再開するため、適切な肥培管理を指導しました。
- 稲作説明会のみならず広報誌にも掲載して、広く周知した結果、品質は平年並みとなりました。

平成30年7月豪雨被害一帯の稲作再開に向けの肥培管理について

土砂流入水田における水稲作付に向けた肥培管理について

稲作再開の再開に向けて、土砂流入による圃場の土壌改良や、水稲の生育に必要な栄養素の補給が重要となります。また、土砂流入による圃場の土壌改良や、水稲の生育に必要な栄養素の補給が重要となります。

1. 圃場の土壌改良

土砂流入による圃場の土壌改良は、稲作再開に向けた重要な取り組みです。土砂流入による圃場の土壌改良は、稲作再開に向けた重要な取り組みです。

2. 肥培管理

稲作再開に向けた圃場の土壌改良は、稲作再開に向けた重要な取り組みです。稲作再開に向けた圃場の土壌改良は、稲作再開に向けた重要な取り組みです。

圃場	土砂流入量 (kg)	土砂流入率 (%)	土砂流入率 (%)
圃場A	1000	10%	10%
圃場B	2000	20%	20%
圃場C	3000	30%	30%

3. 肥培管理

稲作再開に向けた圃場の土壌改良は、稲作再開に向けた重要な取り組みです。稲作再開に向けた圃場の土壌改良は、稲作再開に向けた重要な取り組みです。

4. 品質向上

稲作再開に向けた圃場の土壌改良は、稲作再開に向けた重要な取り組みです。稲作再開に向けた圃場の土壌改良は、稲作再開に向けた重要な取り組みです。

生産資材の価格見直しについて

稲作再開に向けた圃場の土壌改良は、稲作再開に向けた重要な取り組みです。稲作再開に向けた圃場の土壌改良は、稲作再開に向けた重要な取り組みです。

資材名	単価 (円/kg)	単価 (円/kg)	単価 (円/kg)
資材A	100	100	100
資材B	200	200	200
資材C	300	300	300

「援農ボランティア」を斡旋（調整）しました JA三原

- 平成30年7月豪雨で被災した柑橘生産者の農作業補助を目的に、NPO法人おもしろい農とJA広島果実連の仲介により「援農ボランティア」を募って斡旋しました。
- 一般市民と広島大学農業サークルの学生合わせて9人に参加いただき、土砂崩れが発生したレモン農園での収穫作業を支援してもらいました。



三原市・竹原市・尾道市に「義援金」を贈呈しました JA三原

- 被災地復興に向けて義援金を贈呈するとともに、行政とJAが連携して営農復興を進めることを確認しました。



女性部による防災教室が開催されました JA三原

- 女性部が平成30年7月豪雨の被害が大きかった、三原西支店管内と本郷地域の住民を対象に防災教室を開催しました。
- この防災教室は、女性部員のなかで、広島県の「ひろしまJプログラム」で災害時の行動や備えを学んだトレーナーが、地域住民の防災の意識を高めるとともに、復興中の気持ちを休めてもらい、楽しい時間を過ごして元気になってもらいたいとの思いで開催されました。
- 昼食には女性部特製カレーも振る舞われ、参加者は久しぶりに顔を合わせることもあり、にぎやかに過ごされました。



女性部が保育所へ紙芝居を寄贈しました JA三原

- 平成30年7月豪雨で、園舎が3メートル近く浸水したひまわり保育所へ、女性部が園児に喜んでもらおうと紙芝居を寄贈、あわせて読み聞かせをしました。
- 浸水により運営ができず、再開まで1年2か月かかった保育所では、読み聞かせの際、園児たちが食い入るように紙芝居に見入っていました。



千葉県へ支援隊を派遣しました JA三原

- 職員を台風・大雨により被災した千葉県へ、JAグループ広島の実業支援隊の一員として派遣しました。
- 平成30年7月豪雨災害の時、全国から支援をいただいた感謝をこめ、千葉県では倒壊したハウスの解体・撤去などを行いました。



JA施設を避難所として提供する協定を締結しました JA広島北部

- 災害発生時、市町の避難所での受け入れが困難な場合、JA本店と千代田支店を避難所として提供して、迅速な被災者支援につなげるため、安芸高田市・北広島町と協定を締結しました。
- また、避難所としての提供を想定して、約3日分の水と食料を備蓄しています。今後も行政と連携して、地域防災に取り組み、県内の組合員や地域住民の安全を確保します。

ＪＡ・連合会名	タイトル	分野	頁
ＪＡ広島市	情報発信を強化しています	自己改革の見える化	09
	生産コストの約10%削減に取り組んでいます	農業者の所得増大 農業生産の拡大	12
	生産者の連携強化（ネットワークづくり）を支援しています		12
	ＪＡファーマーズ・マーケットの強化に努めています		12
	管内産の農畜産物のPRを強力に推進しています		13
	担い手への農業金融対応を進めています		13
	地域行事に積極的に参加しています	地域の活性化	37
	食農教育に取り組んでいます		37
	レディースクラブの活動		37
	ＪＡ YOUTH 広島市の活動		37
	各種無料相談会を開催しました		38
	ＪＡ広島総合病院と連携して地域生活習慣病予防検診を実施しています		38
	地域に根ざした福祉活動を展開しています		38
	災害協力協定を締結しました	災害対応	54
ＪＡ佐伯中央	6つの生産者組織・部会と話し合いを実践しました	徹底した話し合い	04
	ＪＡ産直ふれあい市場夏まつりを開催しました	農業者の所得増大 農業生産の拡大	13
	農業者サミットを開催しました		13
	規格外農産物を加工食品業者へ販売しています		14
	企業による農業参入を支援しています		14
	「中央サミット」による事業連携に取り組みます	14	
	健康増進ウォーキングを開催しました	地域の活性化	38
	「そう君となっちゃんの畑の学校（食農教育）」を開催しました		39
	ＪＡカップ佐伯中央サッカー大会を開催しました		39
	「ためまっぷ」を活用して地域に情報発信しています		39
ＪＡ安芸	女性部と役職員との対話集会を行いました	徹底した話し合い	04
	リーフレットを作成し、自己改革について理解促進を図りました	自己改革の見える化	09
	市民農園「ＪＡ安芸アグリパーク」を運営し、農業理解を図っています	農業者の所得増大 農業生産の拡大	14
	地域農業の担い手育成支援に取り組んでいます		14
	担い手への金融支援として「ＪＡ営農支援資金」を実施しています		15
	マーケットインによる加工品等の商品開発に取り組み、地域の6次産業化をサポートしています		15
	生産者部会の支援に取り組み、生産振興を図りました		15
	レンタル方式の事業「農家のやる気応援プロジェクト」に取り組み、生産者の負担軽減や生産力の強化を行っています		16
	ＪＡが直接農業経営を行う「ＪＡ安芸きずな農園」を開設しています		16
	講習会等開催し、地域農業振興に取り組んでいます		16
	日本農業検定を実施し、職員の農業に関する知識強化に取り組ましました		17
	役職員が利用者と直接交流し、産直市の活性化に取り組んでいます		17
	地域に密着したＪＡとして、組合員や地域住民のニーズに合った相談会を開催しました	地域の活性化	40
	「ＪＡ安芸助けあい組織いきいき百歳クラブ」の活動により地域に助けあいの輪が広がっています		40
	農業体験や食育活動など食農教育イベントを開催しています		40
	特産の「黒枝豆」のオーナー制度を設け、地元農産物のおいしさや大切さを伝えています		41
	移動金融店舗車両「ふれあい号」を稼働し、きめ細やかな金融サービスを提供しています		41
	地域住民や組合員、女性部が誌面に登場する支店広報誌を作成して配布し、きずなを深めるふれあい訪問活動を行っています		41
	支店を拠点に「健康大学」を開校し、地域住民の健康と暮らしを守る講座を開催しています		41
	災害時緊急避難施設としての使用に関する協定書を締結しました	災害対応	54
ＪＡ呉	女性部とＪＡのつながりをより強固にしています	徹底した話し合い	04
	役員が生産者を訪問しました		05
	スモモの庭先集荷を行っています	農業者の所得増大 農業生産の拡大	17
	炭酸ガス発生機装置を無償貸与しています		18
	地元大学生がオリジナルレシピを発表しました	地域の活性化	42
	支店ふれあい委員会によるふれあい活動を展開しています		42
	女性部・ＪＡ役職員の合同防災教室を開催しました	災害対応	54
	千葉県災害支援隊に職員を派遣しました		54

J A・連合会名	タイトル	分野	頁
J A 広島中央	集落営農法人と意見交換をおこないました	徹底した話し合い	0 5
	J A 女性部や総代との意見交換をおこないました		0 5
	担い手への個別訪問による話し合いをおこなっています		0 6
	ラジコン草刈り機の導入について検証しました	農業者の所得増大 農業生産の拡大	1 8
	小規模稲作農家に地域でグループ化することを提案しています		1 8
	地元野菜を学校給食センターへ安定供給しています		1 9
	直売所での販売を核に野菜生産の拡大に取り組んでいます		1 9
	レンタル農機のラインナップを増加しています		1 9
	資材価格を下げるため物流コストの低減に取り組んでいます		2 0
	ヘリコプターとドローンを活用した防除を受託しています		2 0
	鳥獣被害防止資材の設置作業を支援しました		2 0
	支店ふれあい委員会で積極的に活動しています		4 3
	支店ふれあい活動の充実を図っています		4 3
	農地の復旧に向け職員派遣・助成金支給をおこないました	5 5	
	災害時における施設の利用及び備蓄物品の保管・整備にかかる協定を締結しました	5 5	
	J A 広島ゆたか	出荷説明会を開催しています	農業者の所得増大 農業生産の拡大
営農座談会・注文農業説明会を開催しています		2 1	
担い手部会（百姓一輝の会）の定期検討会を開催しています		2 1	
農業塾を開催しています		2 1	
水田からレモン団地への転換を支援しています		2 2	
レモンの安定販売へ取り組んでいます		2 2	
営農販売推進委員会を開催しています		2 2	
移動購買車を運行しています		地域の活性化	4 3
J A 尾道市	教育文化セミナーを開催しました	徹底した話し合い	0 6
	地域循環米「せらにしあきさかり」を法人と連携して生産しています	農業者の所得増大 農業生産の拡大	2 3
	新規就農者の就農に向けて支援しています		2 3
	尾道ブランド農産物認証の増加に取り組んでいます		2 3
	農業塾を開催しています		2 4
	加工品『はっさくシャーベット』発売しています	2 4	
	地域貢献活動の一環として大型テント・車椅子・ジャンパーを寄贈しました	地域の活性化	4 3
	家の光ミニクッキングフェスタを開催しました	4 4	
	尾道高校ラグビー部にジュース贈呈しました	4 4	
	千葉県へ支援隊を派遣しました	災害対応	5 6
J A 三原	総代会報告会を開催しました	徹底した話し合い	0 6
	役職員が担い手を訪問して意見交換しています		0 7
	女性部と役職員による意見交換会を開催しました		0 7
	手書きによる支店広報紙を作成しています	自己改革の見える化	0 9
	総代会で自己改革の実践内容を報告しました		0 9
	自己改革の取り組みと実績をボードに掲示しました		1 0
	J A 三原版「農業所得増大・地域活性化応援プログラム」を実施しました		2 4
	各地で「農業塾」を実施しています	農業者の所得増大 農業生産の拡大	2 5
	「大型規格の除草剤」特別キャンペーンを実施しました		2 5
	ドローンを活用した「水稲農業散布の受託」「柑橘園の防除試験」を行いました		2 5
	「せとだレモン祭」で加工品を出店しました		2 5
	三原市と共催で「みはら就農フェア2019」を開催しました		2 6
	各種イベントを開催しました		4 4
	「健康セミナー」を開催しました	地域の活性化	4 5
	「料理教室」を開催しました		4 5
	「親子で農作業体験」を開催しました		4 5
	地元小学校で「農作業体験の出前授業」を行いました		4 5
	移動購買車の運行を開始しました		4 6
	三原市長と意見交換をしました		5 6
	稲作の作付け再開に向けて始動しました	災害対応	5 6
「援農ボランティア」を斡旋（調整）しました	5 7		
三原市・竹原市・尾道市に「義援金」を贈呈しました	5 7		
女性部による防災教室が開催されました	5 7		
女性部が保育所へ紙芝居を寄贈しました	5 8		
千葉県へ支援隊を派遣しました	5 8		

JA・連合会名	タイトル	分野	頁	
JA福山市	集落法人と意見を交わし農業経営の課題を共有しました	徹底した話し合い	07	
	女性部と常勤役員による意見交換会を開催しました		08	
	「FUKUYAMAふくふく市」を開設しました	農業者の所得増大 農業生産の拡大	26	
	農畜産物の販売チャネルの多角化に取り組んでいます		26	
	生産資材コストの低減に取り組んでいます		26	
	JA福山市「農業振興支援事業」を実施しています		27	
	沼隈農園（ブドウ栽培）を開園して担い手を育成しています		27	
	中古農業用資材・施設の情報を提供しています		27	
	株式会社JAファームふくやまと連携して生産者の労力軽減・耕作放棄地解消・職員の農業研修に取り組んでいます		28	
	支店運営委員会を設置して支店協同活動を実施しています		地域の活性化	46
	親子での農業体験を実施しました			46
	子供向け食農教育活動「あぐりスクール」を開校しています			46
	JA福山市女性大学「いきいきレディースカレッジ」を開校しています	47		
	食と農の交流館クッキングスタジオを活用して各種料理教室を開催しています	47		
	JA広島北部	スマートフォン専用アプリ「旬みつけ！」の運用を開始しました	農業者の所得増大 農業生産の拡大	28
JA施設を避難所として提供する協定を締結しました		災害対応	58	
JA三次	集落法人とJA役員による意見交換会を実施しました	徹底した話し合い	08	
	女性部とJA役職員の対話集会を実施しました		08	
	米の契約栽培を実施しました	農業者の所得増大 農業生産の拡大	29	
	農業資金ニーズへの対応力を強化しました		29	
	JA三次農政連が農商工福連携「唐辛子プロジェクト」に取り組んでいます		29	
	鳥獣被害防止の支援策を強化しました		29	
	JA三次農業塾「あすなろう塾」を開催しました		30	
	都市と農村交流で地元産農畜産物のPRを行いました		31	
	JA三次ふるさと祭グリーンフェスタ2019で農産物品評会の表彰を行いました		31	
	Aコープ西日本が運行する移動スーパー「とくし丸」の積極的支援に取り組みました		地域の活性化	48
	JA共済連と連携した地域活性化イベント「JA三次キッズまつり」を開催しました	48		
	子どもの農業体験活動を中心とした食農教育の実践に取り組んでいます	49		
	連合会・関連会社等と連携した「JA三次終活フェスタ みよシニア」を開催しました	49		
	「支店だより」による地域への積極的な情報発信と絆づくりに取り組んでいます	50		
	支店活動活性化委員会による支店行動計画の実践に取り組みました	50		
定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業を実施しています	51			
JA三次女性部フレッシュミドル・ミズ部会でおせち料理づくりを行っています	51			
JA庄原	一斉訪問日を導入しています	徹底した話し合い	09	
	支店広報誌を作成しています	自己改革の見える化	10	
	結びつき米「広島県庄原産高野こしひかり」を開発しました	農業者の所得増大 農業生産の拡大	32	
	比婆牛を使ったソーセージを開発しました		32	
	水稲高密度播種苗の供給を開始しました		32	
	ポスタータイプの「水稲栽培ごよみ」を作成しました		32	
	あぐりスクールを開講しました	地域の活性化	51	
	JA庄原女子カレッジを開講しました		52	
	農業日帰り体験企画「グリーンツーリズム34」を開催しました		52	
女性部に広島菜加工場での作業を依頼しました	52			
広島ハイウェイ商談会を開催しました	農業者の所得増大 農業生産の拡大		33	
農業経営者セミナーを開催しました		33		
JAバンク広島利子補給制度を実施しています		33		
JA農業資金保証料助成制度を実施しています		34		
事業性評価を通じた課題解決策を提供して農業者の所得向上に取り組んでいます		34		
JAバンク食農教育応援事業を実施しました		地域の活性化	52	
JA全農ひろしま	3-R（さんあーる）販売開始しました	農業者の所得増大 農業生産の拡大	34	
	JAファーマーズ・マーケットを起点とした農と協同の地域づくりに取り組んでいます		35	
	スマート農業の実証と普及拡大を図っています		35	
	ひろしまクロスカントリー大会に協賛しています	地域の活性化	52	



JAグループ広島

耕そう、大地と地域の未来。